

Listening	指導法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>英文を読ませる前に先ず内容を聞き取らせ、概要を捉えたうえで文字を読ませるようにした。さらに音読させることで、昨年よりも正答率が上がった。</u></li> <li>▪ <u>シャドーイングを積極的に行った。英文を聞くことに抵抗がなくなり、シャドーイングのスキルも上達したことでリスニングパートが昨年よりも向上した。</u></li> <li>▪ <u>定期テストでのリスニング問題に写真やイラストの問題を多く出題した。概要を捉える質問をしてから毎回教科書の内容を聞くことで、理解が深まった。</u></li> <li>▪ <u>まず音声を聞いて内容を理解する時間を取り、生徒がその内容を英語で話し、それをペアの生徒が聞く指導を行った。</u></li> <li>▪ <u>日ごろから英語による授業を心がけて、生徒が英語の音声に触れる機会が多くなったことが結果に結びついたと考える。</u></li> <li>▪ <u>ただ聞くのではなく、目的意識を持たせることが大切だと感じた。</u></li> <li>▪ <u>帯活動で英文のディクテーションを行ったり、教科書本文訳の前に英文を聞かせて内容を確認したことで、英語を聞く力がついてきた。</u></li> </ul>
Reading	指導法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>文脈の中で語彙を捉えることを中心に授業に取り組んできた。意味のまとまりごとに区切りながら、英文を前から意味を捉えていくことができるようになってきている。</u></li> <li>▪ <u>意味が分からない語彙を文章の流れから推測させ、話の全体像をつかむ取組を行った。</u></li> <li>▪ <u>スキミングやスキヤニングを指導することによって、まとまりのある文を読み、時間内に問題に取り組むことができた。</u></li> <li>▪ <u>毎回の授業の中でスキヤニングを練習できるようQ&amp;Aを行い、ポイントとなる語や表現を指導した。パラグラフリーディングなど英文の読み方を指導し、未知語に捉われず情報を読み取る練習を繰り返した。</u></li> <li>▪ <u>毎時間、多読教材「読みトレ」に取り組むことで、短い文章であれば概要を理解することができている。しかし、まとまった文章から概要を正確に理解することに課題がある。</u></li> <li>▪ <u>朝の学習等に「読みトレ」を取り入れたことで、初見の英文もあきらめずに読み取ろうとする生徒が増えた。英文の文脈を捉える力を養うことができた。</u></li> <li>▪ <u>教科書本文を読む際は、精読ではなく、概要をつかむように声かけをした。</u></li> <li>▪ <u>教科書の英文の要点を捉えながら読み、概要を把握させ、Q&amp;Aなどで確認を繰り返した。簡単な文章の流れを理解する力についてはついてきているが、段落ごとや具体的な情報のつながりなどを読み取る力をつけるために、ある程度の語数の英文を読む取組が必要である。</u></li> </ul>

Speaking	指導法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>ペアワークやグループワークでの英語のやり取りを全体でも共有し、良いところや改善点を生徒自身で考えさせ、指摘しあう時間を多く設けた。</u></li> <li>▪ <u>CNETとのスピーキングテスト、タブレットのAIによる採点アプリを使用したり、プレゼンテーションやペアワークでの会話練習を増やした結果、GTECのスコアが昨年よりも上がった。</u></li> <li>▪ <u>Microsoft TeamsによるReadingチェック機能を使い始めた。</u></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>写真やイラストを見ながら状況を伝える活動やペアワークなどに取り組んでいる。</u></li> <li>▪ <u>簡単なペアワークだけにとどまらず、グループでのディスカッションなどで、聞き手を意識しながら話す内容を増やし、自分の考えを伝える力をつけさせたい。</u></li> <li>▪ <u>5W1Hを用いた英問英答をペアワークで毎時間行った結果、基本的な対話力はついてきた。今後は理由や具体例を加えた自分の意見を述べる内容のペアワークをさせる機会を増やさなければならない。</u></li> <li>▪ <u>文法事項の習得において、画像を見て即興で状況を説明する練習を行った。また音読もペアで行い、英語らしいイントネーションや、発音を指導し練習することで正確に伝える力がついた。</u></li> <li>▪ <u>毎授業のWarm-Upでスモールトークとして、ペアで(英語で)意見の交換をする活動を行った。GTECでも間違いを恐れずに英語を話そうとする姿勢に繋がった。</u></li> <li>▪ <u>毎時間ペアワークで自分の意見や理由を述べるスモールトークを実施した。その結果、パートDに成果が見られた。今後は、相手を意識した会話のやり取りや、具体例をあげるなど表現の幅を広げさせたい。</u></li> <li>▪ <u>スピーキングに対して、恥ずかしいという気持ちが大きく消極的な生徒が多いので、生徒自身で作成したパワーポイントやポスターを用いてプレゼンテーションを行う機会を増やした。</u></li> <li>▪ <u>スピーキングスキルの向上に時間をかければかけるほど、リーディングスキルや、単語力の向上にかける時間が減った。4技能にかける時間の配分が難しい。</u></li> <li>▪ <u>教科書の本文をシャドーイング、オーバーラッピングさせた。C-NETによる口頭テストを学期に2回実施した。</u></li> <li>▪ <u>授業でリテリングを行った。また英問英答においては、形式的な答えは出せるが、その先を話すとなると、授業では苦手とする様子が見られたため、今後の授業で取り組んでいく必要がある。</u></li> </ul>

### 生徒の状況

- ・ 校内スピーキングテストでは、C-NETと2分以上会話を続けることができる生徒が80%を超えた。
- ・ 英語を使って会話することが日常的になり、積極的にコミュニケーションが取れるように変容が見られる。
- ・ 生徒間でのやり取りを増やしたことで、質問をしながら会話を続ける力はついてきた。理由や具体例をあげるなどして、より詳しい内容を述べる練習の機会を設定する。
- ・ 質問を正確に捉え、英語で応答することを意識した活動を授業の中に取り入れてきた。いくつかの単語で答えることはできるようになってきているが、完全な文で答えなければならないという意識が強く、自信をもって間違いを恐れずに応答することがなかなかできていない。
- ・ 日常のやり取りにおいて単純に理由をつけて応答する力はついてきているが、複数の文で自分の考えを伝える力をつけるために、指導改善する必要性を感じた。
- ・ 基本的な語や表現を使って応答する力はついてきているが、複数の文を組み合わせて自分の意見をまとめることが出来ない生徒が多い。自由英作の練習をスピーキングにも結び付けていく取組が必要である。

Writing	指導法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>英語で表現する機会を増やし、生徒間で共有することで英語を書く力が身に付き、単純な間違いが減ってきた。</u></li> <li>▪ <u>毎週末、「週末Writing」を宿題として出し、C-NETの協力のもと毎回全員にフィードバックを返した。1, 2学期で20回程度の英作文添削を行い、失敗を恐れずに書く姿勢を育成することができた。</u></li> <li>▪ <u>与えられたトピックについて、まとまった文章を書く練習をしているところである。序論、本論、結論と、流れを意識した指導を進めている。今後は、覚える語句を増やすこと、また覚えている語句を使って表現する練習を続けていく必要がある。</u></li> <li>▪ <u>テストごとに、自分の考え(理由も含む)や場面描写などの英作文を出題した。基本的な文型を用いて、自分の意見を述べる力についてはついてきているが、接続詞などをうまく用いて、ある程度長い、まとまりのある文を書ける力をつける必要がある。</u></li> <li>▪ <u>基本的な英文をつなげて短い文章を書く力についてはあるので、さらに書く情報量を増やすために、5W1Hなどの書きやすい観点の内容を盛り込んだ文を作る練習をしたい。</u></li> </ul>
	<p data-bbox="415 1041 659 1083"><b>フィードバック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>これまでは定期テストのみライティングを出題していたが、リーディング単元ごとにライティングに取り組む機会を作った。また、生徒の作文に適切にフィードバックすることで、積極的に英文を書こうとする生徒が増えた。</u></li> <li>▪ <u>単元ごとや定期テストごとにライティング課題を出し、個別にフィードバックをすることによって、一度に書ける文量を増やすことができた。</u></li> <li>▪ <u>定期テストや実力テストにライティング問題を毎回出題したほか、授業時にも課題を出して添削を行うことによって、積極的に英文を書こうとする生徒が増え、無解答が減少した。</u></li> <li>▪ <u>毎授業で英作文を必ず行い、日ごろから英文を書く習慣をつけた。また生徒が書いた英文のフィードバックを行い、再度書き直す活動も行った。</u></li> <li>▪ <u>ライティングの添削をこまめにおこない、ある程度の語数で中身のある英文を書かせてきた。その結果、内容のある英文を書くことができる生徒が増え、結果も残すことができた。</u></li> </ul>
	<p data-bbox="415 1902 632 1944"><b>生徒の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>短文で書く力についてはある程度長い文章を書いたり、接続詞などを使って文をつなげたりすることについては課題が見られた。</u></li> <li>▪ <u>構成を意識したり、論理的に英作文を書いたりする力を習得させることができたと認識している。</u></li> <li>▪ <u>作文例を提示するとそれを見ながら書くことはできるが、自由英作文は練習してもなかなか成果に結びつくことが難しい。</u></li> </ul>